九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

韓国における中国朝鮮族エスニシティの差異化について ： ソウル「朝鮮族タウン」の展開から見る

李，勁松
九州大学大学院比較社会文化学府

https://doi.org/10.15017/4494601

出版情報：比較社会文化研究. 16, pp.83-99, 2004-10-28. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

『比較社会文化研究』第16号（2004）83～99
Social and Cultural Studies
No. 16（2004）, pp. 83～99

韓国における中国朝鮮族エスニシティの差異化について
――ソウル「朝鮮族タウン」の展開から見る――

李（リ）　勁松（ケイショウ）

Ⅰ　はじめに

中国において朝鮮族は他の民族集団に比べ国内・国外移動者を多く送り出していることが知られている。歴史的に見れば朝鮮族は1860年代朝鮮半島からの移民およびその子孫で、1949年の中華人民共和国の成立とともに中国朝鮮族と命名され、中国の少数民族として定着してきた。しかし1980年代以降、中国の改革開放政策による移動の自由化と韓国経済発展による外国労働者の雇用の急増という背景の中、賃金格差と同じ民族というプル要因もあって再び朝鮮半島の韓国へ逆移動する現象が起きている。[1] 特に1992年に長年断絶されていた中国と韓国との国交樹立後、韓国で就労する朝鮮族の動きが本格的になり、今は中国朝鮮族経済生活の大きな一部になっている。

このような移動に伴い、韓国では1999年から中国朝鮮族の集住化現象が顕著になっている。朝鮮族集住化現象とは、近年朝鮮族出稼ぎ者を中心にソウルなどで盛んに朝鮮族タウンが形成される現象を指す。そこでは朝鮮族により主に出稼ぎに来た朝鮮族を対象とした飲食業などが展開されている。朝鮮族出稼ぎ者の多くは不法滞在という立場に置かれながら、最近は韓国側の教会、市民団体などの協力により様々なイベントーを行うなど、朝鮮族の存在と文化を可視化がする動きが目立っている。[2] 韓国における朝鮮族の集住化、可視化現象は韓国人との関係を通して「中国朝鮮族」[3]というエスニシティが「強化」されていることを意味するものである。この現象はこれまで多かった、「中国朝鮮族と韓国人は同民族であるため、韓国へ出稼ぎに来た中国朝鮮族の文化は、いずれ韓国文化へ吸収される」といった議論の流れと全く正反対のものである。

中国において朝鮮半島の移民としてエスニック化された中国朝鮮族が、出稼ぎ者として韓国へ渡航した場合、同じ朝鮮民族として同化を志向することなく、むしろ韓国内で「中国朝鮮族」として韓国人とは異なる民族性を強調する傾向が強い。このような韓国における朝鮮族のエスニシティの差異化をどう解釈すべきなのか。韓国における朝鮮族の集住化は、一般的な移民たちが移住先で言語などの問題から移住先で困難を乗り越えるために集住化される現象とは異なる面も多い。そこには朝鮮族の帰属意識がもともとの出身民族である朝鮮民族に対するそれから、中国朝鮮族へとずれ込み、さらに韓国人との文化的な差異を強調するため中国人であるというアイデンティティが強化されるに至る過程が秘められている。本稿では韓国における朝鮮族タウンの展開を「エスニシティの差異化」と捉え、そこで見られる朝鮮族の様々な動きを考察してゆく。[4]

中国朝鮮族に関する研究は1990年代から盛んになってきた。中国という多民族国家の中で民族自治州を持ち、伝統的文化、慣習を守ってきた朝鮮族の存在形態への関心から、その歴史、民族文化、民族教育などに関する研究が多く行われた。そして1992年の中韓国交樹立以降からは朝鮮族を独自の歴史、文化を持った集団と捉え、そのエスニシティへの関心が高まったが、エスニシティ分析においては朝鮮族文化の中国文化の混交性による文化的変容に関心が集まったものの、いずれにしても民族文化を基底とした朝鮮半島との関わりに強調点が置かれたことが挙げられる。中国でエスニックである朝鮮族が、国際移動した場合どのように適応するのか、特に同じ民族である韓国社会へ移動した場合にはエスニシティという要因はどのような様相を呈するのか、この問題は朝鮮族のエスニシティへの理解を深める上での一助になると思われる。[5]

韓国における中国朝鮮族に関する研究は現在主に韓国研

1　中国は1980年代改革開放政策を打ち出し、改革の一環として戸籍制度を緩和し、国内移動を可能にした。そして2000年 WTO 加盟により中国の開放と国際社会への融合が加速化する中で、国際移動もブームになっている。朝鮮族の場合韓国という要素も加わり、国内・国外移動率は中国でトップを占めている。

2　毎年ソウルで中国朝鮮族大集会「真夏の披露宴」が行われ、2、3万人の朝鮮族が集まって朝鮮族独有のスポーツ競技などを行っているが、経済的理由で越境した朝鮮族にとって、「エスニック的な集団」としての集合的行為・集合的意識を確立する機会にもなる。

3　韓国では中国朝鮮族を「在中同胞」と称するが、本稿では「中国朝鮮族」という名称を使う。以下「朝鮮族」と表記する。

4　本論では韓国における朝鮮族を一つのエスニック集団と捉え、エスニックに基づいた朝鮮族の行為をこうしたエスニック集団が表出する性格の総体としてエスニシティと表現する。

究者によって行われている。その研究成果は主として、政策、不法滞在者をめぐる入国、差別経験など人権問題に焦点が集中してきた[6]。最近になって韓国における朝鮮族の文化的適応、適応戦略に関する研究が行われるようになった。詳しい研究として魯高勲（2001年）、朴光星（2002年）の研究を取り上げることができる。

魯氏は、「朝鮮族が韓国文化と接触するとき、その共通点と相違点の受け入れ様式が、結果的に韓国人と朝鮮族の葛藤を起こす脈絡になる」とし、朝鮮族の文化的適応という側面に注目しているが、朝鮮族と韓国人が同じ民族という単純な図式から、経済、政治、適応などの問題を指摘したものの、文化的側面においては朝鮮族の文化的葛藤から韓国文化への憧れ、接近を指摘した。しかし、韓国における朝鮮族集住化や「中国式経済活動」が盛んになっている現象は、上記の研究に見られる「朝鮮族の韓国への同化」一辺倒とは異なった様相を示すもので、これは文化的同化アプローチが朝鮮族のエスニシティの解明に限界を持っていることを示す。朴氏は主に韓国における朝鮮族労働者の移動、定着、適応に焦点を置き、具体的な調査に基づいて朝鮮族のネットワーク、相互扶助関係の形成過程を記述し、「同じ民族でありながら、朝鮮族は韓国社会に融合することができず、自分たちの集団内で様々な社会関係を発展させ、生活圏を形成していく」という結論に至り、このような現象の背景には朝鮮族に対する韓国社会の差別構造があると捉えている。朴氏の研究は韓国における朝鮮族の生活実態をある程度明らかにしているが、朝鮮族の集住化を移住先での適応戦略の一つの指標として扱う傾向が強く、エスニシティそのものの考察は抽象的で、韓国内の朝鮮族社会がいかなる背景で差異化されたのか、韓国社会とはどのように繋がり、どのような自律性を保ったのか、というエスニシティの形成・変容に関しては分析が行われていない。

中国側の研究においてはとりわけ、1980年代以降からの移動による離婚、家族崩壊、労働力の流失による、民族集居区の労働力の減少をきっかけとして「民族共同体の解体」に関する議論が盛んに行われた。そこには「韓国との交流によって朝鮮族文化がますます希薄していく」との不安が同居している。また韓国における朝鮮族存在形態においては被害者としての対立関係を単純に図式化する傾向が強く、このような対立から朝鮮族の中国への帰属意識が高まったという抽象的議論が多い[7]。しかし、韓国における朝鮮族の出稼ぎは彼らの主体的選択によるもので、いまも多くの朝鮮族が出稼ぎを志向する傾向から、一方的な被害者という視点では韓国への朝鮮族の移動及び韓国での適応を理解することは不可能である。

韓国において朝鮮族は「韓国語を話す中国人」として登場しており、法的・文化などの面で様々な制約や差異化に直面するなかで、近い民族文化を持つ外国人として複雑なエスニシティ経験を持たざるを得ない。韓国における朝鮮族の集住化とは、中国でカテゴリー化された朝鮮族というエスニック集団が、ホスト社会が中国から韓国に変わる中で再「エスニック化[8]」されたもので、それは韓国という文脈のなかで、既存の関係の再構築を通して構築された「新しい性格」を持つ集団として考察されなければならない。

本研究では朝鮮族の韓国への国際移動とその中での集住化現象、そこで発信される朝鮮族の民族的主張を考察し、中国国内での民族的主張とは異なる韓国内朝鮮族エスニシティの差異化を抽出することを目的とする。そのため、本稿では、2003年８月の調査によるインタビューより、次の二点に注目した。第一は、ソウル中で形成された朝鮮族タウン、およびそこで行われる飲食業などのビジネスが発信するメッセージで、第二は、このようなビジネスに従事する朝鮮族の経済的性向が、韓国で獲得されたという事実である[9]。この二つの事実は経済活動の背景に越境者である朝

5　国際移動に関しては近年、世界的に「適応すれども同化せず」といわれる新移民の特徴が大きな流れになっている。多くの研究では、新移民の流入を背景とした「エスニック再生」をテーマとして、「エスニック・コミュニティ」のあり方やその紐帯の性格、移住先でのその特有の適応の仕方とそこでの彼ら諸個人のアイデンティティの形態に関して注目が集っている。同じ民族間における国際移動としては日系南米人の日本への移動を取り上げることができるが、日系南米人のエスニシティに関する研究として広田氏の研究を取り上げることができる。広田氏は日系南米人が受け入れ社会である日本社会の人々とは異なる社会的・法律的条件の中、異質性を経験する現状から「越境者―エスニシティ」として日系南米人を捉え、日本での適応、エスニシティの特質を論じ、二つの国家において還流的な新たな「生き方」をするとの見解を述べている。韓国における朝鮮族の問題は日本における日系南米人とは異なる現実に基づいて形成されたものであるが、研究経過の中で日本における日系南米人の存在形態を表した「越境者―エスニシティ」の概念を参考としている。

6　薛：1999、李スゥヒョン：1998、黄スンヨン：1999などを取り上げることができる。

7　中国において韓国に出稼ぎに出かけた人達から韓国に対する世論が広がると、延辺、瀋陽、黒流江省などの朝鮮語新聞雑誌は韓国問題に関するキャンペーンに乗り出した。李順玉氏の『中国朝鮮族から見る韓国人、韓国人から見る朝鮮族』』の資料集によると1992年から1997年の間に、これらの新聞で朝鮮族と韓国との交流に関する報道が1,124件で、否定的な側面を扱った記事が長編で半分以上を占め、肯定的な記事はわずかで殆どが簡単なニュースで取り上げられている。遼寧省の「朝鮮文報」は1998年11月７日、「笑って行き、泣いて来る人達たち」と言うタイトルで韓国での朝鮮族の遭遇を一面トップ記事で扱うなど、社会問題化する姿勢を見せている。朝鮮族社会全体に「大韓民国は同胞の国なのか？」と言う問題に問いかけをしているが、レポート段階のもので本格的な研究は行われてない。

8　本論での「エスニック化」とはエスニック・アイデンティティ差異化、もしくは強化される現象としての集団化に対して使用する。

9　例えば、日本、アメリカなどにおける朝鮮族出稼ぎ者の場合、言語の不自由や不法滞在という立場から主に韓国人らが経営する飲食店やクリーニングで働くなど、韓国人との経済的・生活的なつながりが強く、コリアンタウンに重層的な形で存在する傾向が強い。

鮮族のエスニシティ位相の検証に、きわめて重要な示唆を与えてくれるものである。それは朝鮮族タウンが朝鮮族移住者が実際に生活する場であり、さらにその可視性のゆえに韓国社会からの視線にさらされる場として、社会的・文化的にも朝鮮族のエスニシティを表現する意味・役割を持つからである。具体的な分析方法においては、韓国において朝鮮族移住者の多くが不法滞在というインフォーマルな社会集団であるため、その適応状況とそのなかでのエスニシティの状況を、インタビューといった個人の次元から捉えてゆきたい。

II　韓国における朝鮮族のエスニシティの実態

1980年代、韓国はかつて前例のない高度経済成長を成し遂げ、1991年には、一人当たりGNPが6,330ドルになり、経済面では先進国の仲間入りを果たした。他方、韓国は伝統的に移民を送り出す国家であって、1960年代から自国の労働者を正式に海外に送り出していたが、1990年代転換期を迎え、労働力不足が深刻化し、外国から労働者を受け入れざるをえない状況になった。特に産業構造が労働集約的な産業から技術集約的な産業へ転換する過程で、労働力の質の向上は高学歴化と示され、かつての低賃金長時間労働、低学歴の若年労働者に支えられた製造業などは低賃金の外国人労働者を雇うか、海外へ移転するかの選択に迫られている。[10] このような状況は外国人労働者の韓国での就労を可能にしたが、韓国内の外国労働者における中国朝鮮族の割合は圧倒的に高い。朝鮮族に対する韓国側の政策の沿革は次の表1の通りである。

これでの政策は現在も実施されているが、韓国政府は1990年から中国朝鮮族に対して、中国国籍を持つ外国人として「査証」の取得を義務化した。そして、1992年～1994年には60歳以上、1995年からは55歳以上に訪問を許可するとの出入国管理政策を打ち出した。それによって朝鮮族の韓国への入国ルートも変化してきた。

中国朝鮮族の韓国への移動を要約すると、第一段階は1980～1988年で、親族訪問が主流である。第二段階1988年～1992年は、親族訪問を建前に中国薬の販売を始めた時期である。第三段階1992年～現在に至る期間には、研修、観光、企業見学、結婚、密入国などのルートを通じて韓国への大量移動が開始された、非合法出国者の拡大段階である。[11] つまり、親戚訪問から始まった韓国との交流は韓国側の規制が厳しくなるにつれ、その後、労務輸出、不法滞在で拡大の一途を辿っている。韓国にいる朝鮮族はすでに10万人以上になり、現在朝鮮族海外移動者が約15万人という数字から見ると、韓国への出稼ぎが朝鮮族移動の大きな部分を占めていることが分かる。このような韓国における朝鮮族の基本的属性に関しては、産業研修、結婚、企業訪問などの名目の入国、55歳以上の親族訪問という規制から、年齢幅が広く、しかも社会的に底辺労働にしか従事できない社会構図から低学歴者が多いことが推測される。

表1　韓国政府在中同胞（中国朝鮮族）出入国管理政策1986～1998年

時　期	内　容
1987～1989年	在外国民「旅行証明書」の発給.
1990～1992年	中国国籍の外国人としての「査証」発給の義務化.
1992～1994年	法務部の「査証発給許可書」追加、60歳以上の訪問を許可.
1994～1995年	短期査証には「査証発給許可書」廃止、55歳以上の訪問を許可.
1995～1998年	短期査証にも「査証発給許可証」復活、55歳以上の訪問を許可.

出所：薛：1999：p.144.

以下、韓国における二回にわたる現地調査に基づいて、韓国における朝鮮族のエスニック化現象と、そこで行われる朝鮮族の経済活動が持つ意味について検討してみる。[12]

1　韓国における朝鮮族タウンの展開

韓国において朝鮮族のエスニシティが可視化されている場が朝鮮族タウンである。ソウルには朝鮮族タウンと呼ば

10　桑原：1996：pp.233―235. 1980年代から韓国に流入してきた外国人労働者の出身国は中国、フィリピン、バングラデシュ、パキスタン等発展途上の16カ国家で、1999年の在韓外国人労働者数は105,574人である。

11　法務省の2002年の内部資料によると、韓国在住の中国朝鮮族労働者は84,670名で、産業研修生が2,443名、研修就業者が2,296名、不法滞在者が79,931名である。（国家人権委員会：2002年、P．11）中で、不法滞在者数は明確的な数字ではなく、すでに10万人に上ると言われている。ほかに産業研究生などは本当の意味での研修生とは違って、その殆どが賃金が安く、韓国人労働者が集まりにくい「3K労働」に集中しており、こうした研修生に支払われる給料も不法滞在者に比べるとはるかに安いため、脱出者が絶たない。

12　韓国での現地調査は2003年2月12～18日、8月28日から9月12日二回にわたって、主にソウルの朝鮮族街を主な拠点として行った。調査の経緯を簡単にまとめると、最初は朝鮮族の実態を最もよく知る機関として、「海外民族研究所」と「朝鮮族教会」など機関を訪問し、資料を収集した。その後、韓国移住者の中でも出稼ぎ者を主な調査対象とし、カロボン1洞にある教会「中国同胞の家」で朝鮮族出稼ぎ者とコンタクトを取り、ヒヤリングを開始した。彼らとのインタビューから韓国社会における朝鮮族の生活形態、韓国社会に対する意識がある程度把握できた。そして、彼らの話から韓国における朝鮮族タウン、特にそこで経済活動を行う朝鮮族の存在を知り、朝鮮族経営の店を利用しながら、朝鮮族経営者とのインタビュー調査を行った。経済活動に従事する朝鮮族の話は、韓国における朝鮮族コミュニティの形成に関する情報を豊かにしてくれた。さらに教会や店舗で、漢族との関係が重要と認識したため、漢族と朝鮮族関係性に関してインタビュー調査を行った。その後、朝鮮族の多様性を把握するために韓国で留学している朝鮮族留学生とも接触した。

れる区域がいくつか存在する。韓国のマスコミはガリボン1洞を『コリアンドリーム』を抱いている中国朝鮮族の人々が集団居住する街という意味で、「朝鮮族の街」、「中国同胞タウン－ソウルの中の延辺」と呼んでいる。

朝鮮族タウンの地域的性格から見ると、朝鮮族がやってくる以前、この街は韓国産業化の歴史が残っている工場地帯であった。1960年代初め、ソウル都心の貧民村から追い出された撤去民2万人あまりがこの地域に集中して村を形成した。1965年以降は九老公団が形成され、80年代の終わりまで、ここは労働者たちが一間の部屋に住みながら、働きに出かけた「蜂の巣」として有名な街である。ソウルの中で比較的貧しいこの地域には、空き室が多く、家賃も一人が生活できる部屋が約5万ウォン～10万ウォンからあり（1万ウォンが約千円）、出稼ぎ労働者を受け入れる最先端の地域となった。朝鮮族「タウン」はこうした地域的条件を背景として、さらに朝鮮族先住者らの親族・友人を引寄せることを出発点として展開されたのである。[13] 今はこのような関係を通して漢族の出稼ぎ者も数多く集まっている。

地域社会に朝鮮族の一定規模での緩やかな集住が進むなかで、街そのものに朝鮮族食文化が持ち込まれ、商店街における中国人向け品揃えや商品名を中国語で命名することなどの変化が見られた。現地調査でここを訪れた際、全長約500メートルの、100店舗あまり広がっている商店街には、中国語の看板があふれ、朝鮮族経営の料理屋が45ケ所、カラオケ6ケ所、食品ストアが4ケ所、ほかにも韓国における朝鮮族の生活と密接な関係があるパスポートや携帯電話や電話カードを扱う店が3ケ所あった。飲食街は経営者が朝鮮族にもかかわらず、看板が中国語で書かれているだけではなく、名前も「延辺料理」など朝鮮族式名前もあれば、「東方火鍋城」「中国風味飯店」「チャイナカラオケ」など中国式名前もあって、朝鮮族タウンというより、チャイナタウンの様相を呈している。[14] そして飲食街に設置されている市場には、約30軒の店のなかで12軒は「中国食品ストア」で、干豆腐、香菜、臭豆腐など韓国人たちが知らない中国食材が揃っている。地域住民の話しによると、旧正月には街に中国での漢族の伝統である「紅灯篭」がかけられていて、異国の雰囲気がさらに漂うという。買い物客の殆どは朝鮮族と漢族の出稼ぎ者と言われ、あちこちで中国語や朝鮮族方言が耳に飛び込む。この地域の公団5町にはまた朝鮮族を支援するための韓国側のボランティアによる「中国同胞教会」もあって、朝鮮族は自然にそこで出会い、朝鮮族を中心とした「地域共同体」を形成していくのである。[15] 彼らの多くは不法滞在をしているため、正確の数字は把握できないが、約3万人は居住しているといわれている。

ほかにソウルのグロドン、ガリボン、ガサンドン、ドクサンドン、デリムドン一帯も「朝鮮族の街」と呼ばれるほど、朝鮮族の人たちが集団居住している。ここに住んでいる朝鮮族の多くは、親戚訪問に訪れてそのまま残留した人たちか、近年の産業研修生、偽装結婚、密入国などで集まった人達である。男性の場合、殆どが土木・建設、製造業、工場など韓国国内で忌避される、いわゆる3K業種・労働に就労し、劣悪な労働条件のもとで働いている。女性の場合、家事手伝い、飲食業などで働いている。飲食業が盛んになっている朝鮮族タウンは、韓国社会に「中国朝鮮族社会」を持ち込んでいると評されるが、このような韓国で形成される朝鮮族タウンは、中国国内の朝鮮族タウンが朝鮮族としての独自性が強調するのに対し、むしろ中国色を強調し、チャイナタウンの様相を呈している。[16]

2　朝鮮族の経済活動の展開とエスニシティの差異化

朝鮮族タウンにおける朝鮮族飲食業などは朝鮮族の経済的性向を表すものであり、このビジネスを舞台にする朝鮮族出稼ぎ者の意識は朝鮮族と韓国社会との新たな共存のありかたやエスニシティの差異化を表している。

朝鮮族タウンで朝鮮族飲食店が出現し、「延辺」と呼ばれ始めたのは1999年頃からである。朝鮮族タウンは韓国で朝鮮族の初期の一時受け入れ地としての役割をもつが、同時に朝鮮族移住者の需要が朝鮮族ビジネスそのものを成立さ

13　朝鮮族の存在は地域の経済活性化に繋がるものである。現在、その町で生活している韓国人にとって、不動産、商売が成り立つには、朝鮮族出稼ぎ者の存在が欠せない。不動産業を見ても、朝鮮族が来る前には空き部屋が多かったが、朝鮮族が来てから95%の空き部屋が満室になったとの報道もある。

14　九老公団一帯の朝鮮族タウンの形成によって、ソウルには大きく三つの中国系地域社会が共存するようになった。台湾系華僑、中国系華僑、中国朝鮮族がそれぞれヨンナンドン、明洞、グロドン地域を中心に自分達の独特の文化的地域空間を作り上げている。韓国色が強い華僑たちの地域とは対象的に朝鮮族タウンは中国的なものが主流になっているが、韓国において朝鮮族の人たちはこのようなものは中国的なものとは区別される朝鮮族の文化と解釈している。

15　「ソウル朝鮮族教会」は1999年6月6日、「中国同胞之家」は1993年に韓国人ボランティアの手で設立された。ほかにも「朝鮮族福祉宣教センター」「中国労働者センター」「中国労働者教会」などのボランティア組織があるが、これらの団体は朝鮮族に休みの場、食事、医療などを提供する。また朝鮮族の権利を獲得するための運動を行ったり、朝鮮族と韓国社会との問題解決のパイプとしての役割を果たしているが、朝鮮族の集団化にもまた大きな一役をかうと思われる。他方、教会では朝鮮族に帰国後の支援として、コンピューター教育などを行っている。

16　北京、瀋陽など中国国内で形成される朝鮮族街はコリアンタウンの様相を呈しているが、それは韓国的文化要因を前面に出した朝鮮族文化の演出である。つまり、中国における朝鮮族エスニシティを見る限り、それは漢族という民族関係の中で朝鮮族という民族文化要素が一つのエスニシティの象徴として強調されている。

せる要因として働いた。朝鮮族出稼ぎ者の流入と集中化が継続する状況で、朝鮮族の中には韓国での就労、結婚などを経て、一定の資金を調達した後、自分で開店する人々が現れ始めた。韓国において朝鮮族は十分な資金を持っているといえない。そのため、韓国人スポンサーを見つけて店を始めたケースもあるものの、多くの人は起業や経営を行う際には親族や同郷人ネットワークを積極的に活用しているのである。この地域の教会関係者の話によると、現在ソウルには平均3、4日に一軒の朝鮮族食堂が現れると言われるほど朝鮮族による飲食店経営が盛んになっている。このように朝鮮族のエスニック・ビジネスが盛んになっている背景、及び韓国社会への適応やエスニシティのあり方はどのように変化したのかを、次の飲食業経営の二人の経緯から簡単にみよう。

資料1「1998年に韓国人男性と結婚して来た。店を開くとき、朝鮮族が多いということと、交通が便利で部屋代、保証金などが安いということで、いまの場所を選んだ。店は餃子屋で、店の看板も「小吃部」と典型的な中国の名前である。中国では飲食業に従事した経験がなく、料理の担当は同じ出身地の経験者に任せている。店では韓国の客を期待していない。それは韓国人と食文化が違うこともあるが、なにより韓国人客と朝鮮族客とのトラブルを避けたいことと、不法滞在である朝鮮族が安心できる場所の提供ということである。そのためメニューも中国語でしか書かない。従業員2人は中国から来た親戚で、韓国人との付き合いもなく、夫の親戚との付き合いもほとんどない。」

（全文は後の資料集「経済活動」の部分を参照.）

資料2「自分はお父さんの戸籍が偶然にも韓国に残っていたため、1999年に一家4人が韓国国籍を獲得し、韓国で生活することになった。韓国での長期的な生活を考えて家族で朝鮮族が多く集まっているガリボンに店を出すことにした。最初は資金が少なかったため小規模の「羊肉串」店を出した。その後カラオケ店を出したが、必要な資金8,000万ウォンは韓国にいる友人、親族らから借りた。カラオケメニューには中国歌謡、延辺歌謡が圧倒的に多い。いまはお客のリクエストに答えて、4000曲まで増やしており、看板も中国歌謡、延辺歌謡と漢語で書かれている。お店には漢族の常連客もいるが、朝鮮族友人と来るケースが多い。韓国で言葉が通じないことから、やはり朝鮮族に親しみを感じるからである。いまは韓国だけではなく中国でも「ビデオ」店を現地の友人と共同経営しているが、将来は中国での経営に力を入れるつもりである。」

（全文は後の資料集「経済活動」の部分を参照.）

資料1、2の二人の経営開始経緯を見ると、最初店を開くとき、ガリボン地区に朝鮮族が多いということと、交通が便利で部屋代、保証金などが安かったため、その場所を選んだことが述べられている。そして、資金においても資料2の男性の場合には、すべて親族、友人などから捻出しており、その客も朝鮮族によって成り立っている。そして朝鮮族との関係から漢族の客も来店する。注目すべきは経済活動の資金や客の獲得が、朝鮮族自身のネットワークを通して調達され、朝鮮族を対象に展開されたもので、地域住民との連携がほとんどない点である。資料1の女性の場合、店の看板も「小吃部」、メニューも全部中国語でしか書かれていないなど、韓国人客を遠慮する傾向が強いが、韓国「中央日報」2002年8月16日の「ソウルの中の延辺―朝鮮族タウン」の記事にも、記者が朝鮮族の飲食店を訪ねたとき、「韓国人には味が合わないと思います」と断わられたとの話がある。繰り返して言うが、ここで生活する朝鮮族、漢族のほとんどが不法滞在のため、経営者たちは韓国側の不法滞在者に対する取締りが厳しくなると、韓国人客を断ることによって、朝鮮族・漢族出稼ぎ者により安心できる場所を提供しているのである。調査を行った時にも、店の一つの部屋で男たちがマージャンをしていた。仕事が見つからない朝鮮族が集まったという。彼等との接触を試みたが、彼女はみんな不法滞在の身分であるため取材を好まないといいながら、接触を承諾してくれなかった。これは一例に過ぎないが、少なくともお店が朝鮮族の働く場所以外に社交場であり、安らぎを求める場所でもあることは明らかである。そしてこのような場所で朝鮮族ネットワークが広がり、このような関係網から互いに仕事を紹介しあったりしながら結束力を強めていくともいえる。また朝鮮族タウンのお店には韓国における朝鮮族イベントに関するパンプレットや朝鮮族向けの「東北亜新聞」[17]などがおいてあったが、韓国生活に必要な「情報」がこのような店を通して発布され、伝達されるのである。

経済活動の内容を見ると、この二人の場合は経済利益に加え朝鮮族の郷愁的な側面が大きいことがあきらかである。特にカラオケの経営者の場合、中国での状況とは異なり、お客のリクエストに答えて、中国歌謡、延辺歌謡を4,000曲まで増やしたということなどは、朝鮮族の郷愁的要因が大きく、それがまた経営者の経済的利益に結びついていることである。また朝鮮族タウンで展開される飲食店の内容を見ても、いわゆる中国で言う朝鮮族的なものではなく、中国文化要素を用いることで韓国内において朝鮮族の特徴を強調していることが明らかである。このような展開の背景には、朝鮮族出稼ぎ者や漢族出稼ぎ者が急増することによって、彼らを対象とするビジネスの需要が喚起され、ビ

17　ソウル朝鮮族教会によって2000年6月から発行される「朝鮮族ニュース」ペーパー。週刊誌で、一面のニュース以外に朝鮮族に関する物語り、朝鮮族友人、朝鮮族団体、朝鮮族との出会い、生活情報などが載せられている。

ジネスが活発になってきたということであるが、これは韓国社会に身をおくことで朝鮮族が中国文化を、模倣し、摂取し、朝鮮族独自の文化として再定義するに至る過程でもある。つまり、韓国における朝鮮族経済活動は中国文化への拘りとの新しい要素に支えられ、展開されるのである。

そして、韓国における朝鮮族経済活動に影響を与えるもう一つの大きな要因とは韓国社会の反応である。実際、朝鮮族「定着化」の進行は朝鮮族と当該地域住民との新たな関係の構築も要請される。朝鮮族タウンの形成、そこで行われる朝鮮族の経済活動は韓国社会に快く受け入れられたとは決して言えない。当初、朝鮮族タウンを中心とした地域は犯罪などが多く、韓国社会で無法地帯というイメージが強く、多くのメディアでは朝鮮族タウンをスラム文化地域として非難した。[18] 韓国社会という新しい環境の中で朝鮮族自身の生活を維持し、諸条件を改善していくためには、朝鮮族経営者たちは韓国側の衛生管理などの条例に基づいて、清潔な店内環境、サービスなど「合理的な」経営手段を受容しつつ、治安などの面でも固有の習慣や行動パターンを修正していかなければならなかったのである。

このような状況から、朝鮮族タウンにおける朝鮮族経済活動の特徴をまとめると、第一に、ここでのビジネスの展開こそ、朝鮮族の就労情報などさまざまな機会を提供し、ここを中心に朝鮮族の輪が広がり、タウンが展開される最大の原因になっている点が挙げられる。また朝鮮族経営者が韓国社会で比較的自己資本によって経営をしており、主体性をもつ事業者として登場していることから、長期的な生活を考えて家族単位の朝鮮族の「自立化」や、韓国社会との共存のあり方が進行しつつあるといえる。現時点で朝鮮族経営者は比較的単純な経済活動段階にあるとしても、このような基本的に異なるニッチを占めることによって、そして、朝鮮族によって利用されることによってエスニシティとしての朝鮮族のまとまりを維持していくことが可能だと思われる。[19] 第二は、朝鮮族によるビジネスが朝鮮族と漢族出稼ぎ者、さらには韓国社会の要望に応じて展開するなかで、朝鮮族経済活動の中の文化的要因も絶えず変化し、中国朝鮮族文化、韓国文化、中国文化がさらに融合されていく点である。しかし、一方で韓国において朝鮮族が持ち込んだこのようなビジネスは韓国社会一般を対象として、中国朝鮮族固有の文化を表現したものと見なすことが出来る。このような一連の動きは、韓国内中国朝鮮族という文化的カテゴリーを作り出すものである。ちなみに、調査で接触した韓国人は中国朝鮮族のイメージとして「同じ民族としても言葉が同じだけで、ほかは違いますね。食べ物もまったく違うし」と話ししてくれたように、朝鮮族タウンで展開されるビジネスはすべて朝鮮族文化を反映したものとみなされることが多い。これは、韓国という新しい環境の中で、従来論じられた朝鮮族民族文化の内容が変化しつつあることを意味する。

III　韓国における朝鮮族集住化の背景

ここまで韓国社会で展開される朝鮮族タウンの展開を見てきた。このような展開は韓国という社会文脈の中で形成されたわけであるが、以下では韓国における朝鮮族の集住化の背景を見ていく。

1．保障制度の不在と相互扶助関係の形成

韓国における朝鮮族に対する政策、そして朝鮮族の不法滞在という立場、そのための保護措置の欠如が朝鮮族の連携を強化したのはいうまでもない。まず、朝鮮族の韓国への入国ルートから見ると、親族訪問、研修生、結婚、考察という名目などがあるが、今はブローカーを通じて移動する人が圧倒的に多い。[20] 朝鮮族に対する韓国側の入国管理制度が厳しくなったため、中国の朝鮮族が多い都市では出稼ぎ出国者を手伝うあっせん業者が活躍することになった。中国では「海外労務輸出」という名義の会社が存在するほか、未公認の周旋業者も多数存在し、暗躍している。近年ブローカーによる入国の費用は高騰しつづけ自己資金で全て賄うことがほぼ不可能となっている。[21] そのため現在では、自己資金だけではなく、さまざまな経路で資金を集め

18　多くのメディアでは朝鮮族タウンをスラム地域とし、朝鮮族集居地域を舞台とした強盗事件や麻薬事件などが、朝鮮族が韓国社会におよぼす「影響」を象徴する問題として繰り返して報道された。「中国朝鮮族が多数居住するため飲食街も生まれるが、暴力、麻薬、売春など暗い面もついてくる。街ではアメリカドルや中国元の為替商人が目立ち、表面上わからないように暴力団も存在して、『中国同胞解決士』と称して暗躍している。」(「中央新聞」　2001年1月12日　6面）これらの記事は朝鮮族タウンが貧困地域であることを強調した上で、そこに中国からの出稼ぎ者のマイナスイメージ（中国マフィア、不法滞在者、犯罪の温床等）を重ね合わせ、朝鮮族タウン＝スラムというステレオタイプなイメージを助長した。

19　韓国という異質な社会環境のなかで適応するため外国人労働者は相互扶助関係を持っており、自分たちの力、もしくは宗教機関、外国人労働者支援団体の協力で、出身国別の共同体を形成する。そこには1992年に形成されたフィリピンコミュニティ、ネパールコミュニティが存在し、組織的な活動を行うが、彼らの社会的生活求心点は日曜日の参拝活動にある。彼等と朝鮮族コミュニティの大きな違いは朝鮮族はエスニック経済活動を行うことによって、朝鮮族の存在を可視化するだけではなく、自分たちの生活圏を確立していくことである。

20　国家人権委員会：2002：P．103.

21　ブローカーを利用して韓国へ入国する際、人民元8万元ぐらいかかるが、この金額は中国一般労働者の7、8年間の年収に当たる金額である。

る。資金の捻出する方法は自己資金、家などを担保に銀行からの借金、親族・友人からの借金、高金利での借金などがある。なかには家族が韓国でお金を稼いで、その金で家族を呼び寄せるケースも多いが、一般的にはこれらの資金捻出方法のいずれかを併用して資金を作っていくのである。銀行の個人向けの融資が少ないため、親族・友人から借金するケースが多く、したがって本国で親族・友人の間で資金援助関係が強い。

また、ブローカーを利用しない場合の入国ルートは、表2からわかるように「韓国にいる家族・親戚」が44.1%で圧倒的に多く、韓国人友人はわずか16.8%である。これは韓国への入国のおいて韓国人に頼る人が少なく、自分たちの親族・友人関係で展開されていることがわかる。多くの人は先に韓国で稼いだお金を資金に家族を呼ぶが、必ずしも家族単位の移動ではないものの、子女同伴が多く、子女一人が47.5%、二人が12.5%であるとの統計数字もある。[22]

表2　ブローカーを利用しない場合韓国への入国ルート（%）

本国の友人	25.4
本国の家族・友人	16.9
韓国にいる家族・親戚	44.1
韓国にいる本国の友人	6.8
韓国人友人	16.8

出所：薛：1999：p．250より作成.

韓国に入国してからの仕事状況を表3から見ると、仕事の紹介において新規移動者の場合、「本国の友人・同僚」が30.2%、「韓国にいる家族・親族」が27.0%を占めている。新規移動者の場合、殆どが自分で直接居住先、仕事を選択することができないため、先に来ている友人を頼りに、単純労働者として就職機会を紹介してもらうことが多い。ソウルには「職業斡旋所」が存在し、10万ウォンを払って紹介してもらうことが出来るが、韓国人仕事斡業者を利用する人はかなり少ないことがわかる。

表3　不法滞在者の求職方法（%）

	最初の職業	現在職業
本国の友人・同僚	30.2	42.3
本国人仕事斡旋者	7.9	3.8
韓国人仕事斡旋者	1.6	5.8
韓国にいる家族・親族	27.0	5.8
韓国人友人	5.2	25.0
其の他	28.1	17.3

出所：薛：1999：p．251より作成.

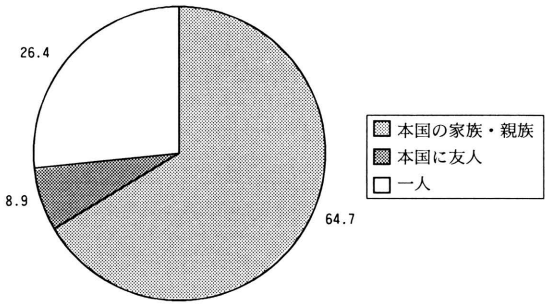

図1　韓国における居住状況（%）

出所：国家人権委員会：2002：p.196より作成.

居住においても「本国での家族・親族との同居が64.7%、本国での友人が8.9%、一人が26.4%で」、親族・友人関係が密接であることがわかる。この数字から韓国内で就労する朝鮮族の多くは、韓国に移動後も中国での親族・友人関係の延長上で雇用機会や居住を確保しているといえる。朝鮮族の韓国への移動に関しては、朝鮮族の血縁・地縁を中心したネットワークが大きな役割を果たしているといえる。

つまり入国、仕事、居住などにおいて朝鮮族の間に緊密な相互扶助関係があることが明らかであるが、このようなさまざまな個人的ネットワークの必要性から朝鮮族集住区が出現したことが指摘されている。[23] 産業研修生で入国した朝鮮族の場合も、韓国にいる知人などが増えることによって、個人的な関係網を利用すれば、比較的容易に不法滞在という道を選択することもできる。

2．国際結婚とコミュニティの拡大

朝鮮族集住地域が形成されることにより、どちらかといえば隠れた存在であった朝鮮族就労者の存在が顕在化されるが、そこで展開されるビジネスは朝鮮族のエスニック化の過程において「結節点」の役割を果たし、さらに朝鮮族が韓国社会で経済的に自立できることを示した。また朝鮮族タウンは中国朝鮮族としてのエスニシティを利用したエスニック・ビジネスを展開する場を提供した。朝鮮族タウンにおいていちはやくエスニック・ビジネス経営に乗り出した人の殆どは合法的身分である国際結婚者である。朝鮮族の韓国への入国に対する韓国側の規制が厳しくなると、韓国人と国際結婚することが韓国への合法的な入国ルートの一つとなってきている。次表4は近年における朝鮮族女性の国際結婚数である。

表4の国際結婚者数の全体から見ても朝鮮族女性と韓国

22　国家人権委員会：2002：p．198.
23　韓国において朝鮮族内部で展開されるネットワークに関する詳細な研究として朴：2003年を参照。

表4　1994～2001年1月国際結婚統計表

年度	合計	婚姻状況			職業状況			相手の国籍		
		未婚	離婚	喪偶	幹部	工人	農民	韓国	日本	その他
1994	829	472	334	23	30	506	293	760	57	12
1995	2077	1026	866	185	71	1544	462	2012	48	17
1996	2463	1413	815	235	86	1754	623	2325	112	26
1997	3066	1662	1002	402	79	2398	589	2898	147	21
1998	2348	1084	937	327	14	2152	182	2142	194	12
1999	1467	691	639	137	841	525	101	1239	197	31
2000	1954	1009	783	162	25	1516	413	1635	268	51
2001	257	115	119	23	1	181	75	229	22	6

出所：許：2001：P．210.

＊中国で言う「幹部」とは公務員、管理職に従事する人、「工人」は労働者を指す。

人男性との国際結婚が圧倒的多く、年々増えていることがわかる。しかも、国際結婚者全体の中で離婚経験者の割合が非常に高い。実はこの背景には既婚者で韓国の就労を希望する場合、出稼ぎのため一旦離婚し、韓国人と結婚するといった、出国が目的の偽装結婚者が多いと言われている。韓国人男性と結婚した場合、韓国への帰化が可能であるが、韓国における朝鮮族女性の婚姻帰化数は、1992年224人から1996年には11,222人、1998年には30,349人と急増している。[24] 国際結婚者により韓国で定住した朝鮮族女性と朝鮮族コミュニティの拡大の関係について以下の事例から見てゆく。

資料3「自分はブローカーを利用して韓国人男性と結婚した。韓国での生活が安定すると、姉と弟の出国費用の一部を援助し、兄弟を韓国に呼び寄せた。そして合法的身分を利用してお店も開いた。店の客の殆どが不法滞在の朝鮮族であるため、自分の名義で彼等に携帯電話を登録してあげたり、仕送りもしてあげたり、また知人に頼んで仕事を紹介したり、部屋の世話をしてあげるなど世話役を勤めたが、そのうちその人たちが又知人を紹介することになり、世話役の中心になった。」

（全文は後の資料集「国際結婚」の部分を参照.）

資料3の女性の韓国に出てきた経緯は、ある意味で国際結婚による移動者の典型的な移動の経緯を表している。彼女の場合、海外出稼ぎや配偶者になることは外貨獲得のための戦略の1つであって、韓国で彼女を中心に親族関係と相互扶助関係が拡大したことは明らかである。結婚の場合、両親を招待することが可能であるが、多くの女性は自分の親がいなかったり、病気などで来られない場合、その招待状を売ったりする。ほかにも韓国男性と中国朝鮮族女性の結婚の仲人になったり、韓国人と手を組んで偽装結婚を成功させ、そこから仲介費をもらうなど、ブローカーになるケースも多い。[25] また、合法的身分ということで、朝鮮族不法滞在者のさまざまな問題を解決したり、飲食店の経営に乗り出したりするが、それによって朝鮮族の集住化が進み、朝鮮族の生活が便利なったと言える。つまり、一人の女性によって始められた移動が多くの朝鮮族の移動を促し、特定の範囲の親族紐帯を基礎にしつつ、社会関係の中で作られていく相互扶助関係のネットワークがさらに強化され、多くの朝鮮族の入国を可能にしている。最近では国際結婚者を中心に組織化される傾向もあるが、ある意味で婚姻という形での朝鮮族女性の移動は広範な相互扶助関係の形成と出稼ぎの急速な広がりを助長し、韓国で朝鮮族コミュニティの形成と拡大に重要な機能を果たしているといえる。[26]

保障制度の不在による相互扶助関係の形成、国際結婚者を中心とした集住化の過程から次のような朝鮮族の特徴が浮かび上がる。つまり、韓国における朝鮮族の移動は民族的絆が朝鮮族を韓国に引きつけたというよりも、韓国中小企業による朝鮮族雇用の増大というのがプル要因となり、ブローカーや中国での個人的なネットワークにたよって移動するのであって、これに血統や文化の共有という要因などが結果的に利用されたということである。そして、韓国における入国のための資金、情報、韓国での生活、仕事、居住においても韓国の親類を頼る人が少なく、殆どが朝鮮族親族・友人などの中国での人間関係の中で展開され、生活を図っていくのであるが、国際結婚の増加がさらにコミュニティが生じ易い状況を生み出しているのである。

24　警察省の発表によると韓国国籍獲得後離婚したり、無断で家出するといった偽装結婚のケースが帰化者全体の20～25％を占める。法務省は今後とも偽装結婚で韓国国籍を獲得する朝鮮族女性数が1995年以降、毎年6,000人以上になると推定しているが、韓国国内男性は偽装結婚の条件で謝礼金5百万ウォンをもらうという。韓国人と結婚すると韓国国籍を獲得し、外国人扱いをされない。ただし、それが偽装結婚であることが発覚されると国籍が無効になり、強制送還される。また、居住ビザの申請も可能であるが、居住ビザは5年間合法的な滞在が可能であり、制限された業種での就職活動が可能である。（国家人権委員会：2001：P．223.）

25　朴：2002：P．33.

26　例えば、2000年からは「中国朝鮮族集まり」というインターネットサイトを設けて、国際結婚者を中心に、中国朝鮮族の咨詢電話を設置したり、仕事の紹介、出会いの場所の提供、韓国社会に中国を紹介するなど活動の内容を広めている。

他方、朝鮮族の集団化は朝鮮族コミュニティが韓国社会に対置していく過程でもある。韓国社会で不法滞在者として法的状況の改善を目指して、韓国人ボランティアの支持のもとでさまざまな運動も続けられている。韓国における「中国労働者之家」、「ソウル朝鮮族教会」などの団体は朝鮮族の権利を擁護するために設立された団体である。これらの団体は不法滞在である「朝鮮族」とそれ以外の「中国人労働者」を糾合することで、韓国社会からの圧力に対応しようとしており、このような活動に何千人もの朝鮮族が参加している。ほかにも1995年3月26日には朝鮮族不法滞在者が自分たちで「中国労働者協会」を設立した。韓国在住の朝鮮族立場の改善、韓国社会での労働、生活に必要な情報を提供し、緊急事態に対応するなど、朝鮮族の便宜や相互協力のために設立された協会は、70人の代表から運営されているが、1997年からは毎年正月、中秋節などにはさまざまなイベントも催しているが、1997年2月2日の「第一回中国同胞勤労者正月披露宴」には中国大使も参加した。[27]

韓国における朝鮮族の集団化は韓国人との関係性から、周縁的存在としての自分たちの利益を守るために形成されるものであって、その構図は中国でのマジョリティ(漢族)との関係のなかでのエスニック化される過程とは異なる、新しい要素を持つものである。つまり韓国における朝鮮族の集団化は、既存の「中国朝鮮族」というカテゴリーが、不法滞在という逆境に対する防御的な対応として、朝鮮族の共通の利益のために構成されたものだけではなく、「中国」を軸にして中国人として韓国社会と対置される集団として確立する動きでもある。[28] そして、彼らの経済活動も彼ら自身のこのような新たな共同性によって支えられて、展開し、またさらなるビジネスチャンスや就労機会の拡大を生み出すのである。勿論、今の段階で朝鮮族コミュニティは誕生したばかりで、その機能を十分に果すほど成熟しているとは言えないが、エスニシティとしての朝鮮族集団意識を強化させる場として役割を果たしているといえる。

Ⅳ　韓国における朝鮮族エスニシティの差異化

中国文化を持ち込み、可視化する行為は朝鮮族が自らを韓国人とは異なっている、または異なる集団に属していると同定する過程でもある。朝鮮族と韓国人は共通の祖先を持つ、同じ民族という接点から民族文化の面では境界の曖昧さを持っているが、朝鮮族と韓国人をめぐる「差異」が生じる背景に共通して見られるのは「歴史文化」、「中国人」などによる「相違」が強調されている点である。中国朝鮮族は100年以上にわたる移民の歴史と中国と韓国との50年間の国交断絶を経験してきた。異なる国家体制、理念の中で、同じ民族でありながらも国籍、経済、文化などの差異からさまざまな面で葛藤が生じている。

1．国籍と周縁的エスニシティの形成

同じ民族である韓国人との差異は「国民」という形態から現れる。中国国籍を持つ朝鮮族は、国境を越えても「国家」と「国民」を背負っているため、受け入れ社会の人々とは異なる社会的、法律的条件の中で生活しなければならない状況に置かれている。表1の朝鮮族に対する韓国側の政策の沿革からも分かるように、1987～1989年の在外国民「旅行証明書」の発給から1992年以降は中国国籍を持つ外国人として「査証」(ビザ)の取得が義務化された。これは同じ民族としての韓国人と朝鮮族と言う図式ではなく、国籍を優位とみなすことを示す。

その後の1998年8月25日、韓国法務部は「在外同胞を内国人（韓国人）と事実上同等に待遇する」という「在外同胞出入国と法的地位に関する特例法」の実施を予告した。この特例法案は「韓国系外国人」に対して、現在の国籍と関係なく「在外同胞登録証」を発給してもらえば「住民登録所」を持っている韓国人とほぼ同等な法的地位を獲得すると規定されていた。[29] これに対して中国とロシア政府は在外同胞に対する韓国への出入国と韓国内滞在および政治・経済的権限を拡大する場合、自国の民族政策に大きな影響を与えると強く反発した。[30] 結果、韓国政府は「国家の安全

27　協会が掲げた「われわれの立場」とは「'定住者滞在資格制度'の実施として'親族訪問合法化'、'定住者査証'期間の2～3年保障および本人の希望によって滞在期間の延長、毎年2万名の朝鮮族を受け入れ3年間に6万人になるように調節していくこと、韓国人と同じ待遇を受けること、職場移動の自由を保障する」ことである。会員は毎月5千ウォン会費を払い、会員証が発給される。

28　韓国社会に対置される集団として「中国同胞解決士」と呼ばれる暴力団が活躍していると報道する記事もある。中国朝鮮族によって形成されたこの組織は主に、韓国業者の給料未納、詐欺、朝鮮族が産災に遭った時の解決士として活躍する。組織の中では麻薬の取引も行われると言われる。ほかにも2001年には中国同胞青年5人が「朝鮮族連合準備委員会」を発足し、「朝鮮族問題は朝鮮族自身が解決する」とのスローガンを掲げて、インターネットサイトを開設し、サイトで共同体を構築している。

29　韓国系の在外同胞は中国が196万人、アメリカが185万人、日本が66万人、ロシアが45万人である。そのなかで中国とロシアが韓国より経済発展水準が低く、これらの国の同胞が韓国へ出稼ぎに来るが、現在は中国朝鮮族が圧倒的に多い。

30　1995年2月20日、韓国『中央日報』の「朝鮮族分裂行為自制促求－中国李鵬総理訪中時問題提起」と言う記事には中国を公式訪問した韓国の李洪九総理に対して中国の李鵬総理が「韓国人が中国朝鮮族に対して思想的に大きく汚染している。朝鮮族は中国少数民族一員であり、厳然に中国公民である」と明確に提起した。特例法に反対する中国の理由ははっきりしている。特例法が実施されれば、中国国内にいる朝鮮族にも適用され、事実上の二重国籍になるため中国の法律に抵触することになる。

と外交関係、公共福祉及び国家利益を脅かす可能性がある人を除いて『在外同胞滞在資格』を付与する」と規定することになり、朝鮮族は「在外同胞滞在資格」から排除された。こうして国家と国家の狭間で、朝鮮族は「中国人」として位置づけられ、韓国への入国、韓国での生活などさまざまな面で外国人としての制限とそれに起因する差別や偏見を経験しなければならなくなった。それは朝鮮族が韓国社会でカテゴリー化されてゆく過程でもあった。これ以降、韓国社会で「中国朝鮮族」という存在を周縁的存在として構成していく言説がマスメディアにも広く見られるようになる。

例えば「朝鮮日報」の記事を取り上げて見ても、1990年から1995年までの朝鮮族に関する記事は朝鮮族文化、歴史紹介などが多く、同じ民族カテゴリーとして捉えられていた。しかし、1996年～2003年８月までの朝鮮族に関する1,113件の記事には主に韓国における朝鮮族の問題点などが取り上げられている。「中央日報」「東亜日報」などにも朝鮮族に関する記事が数多く載せられているが、多くの記事には韓国を夢見て命がけで韓国に入国したさまざまな人物像にとどまらず、韓国への憧れ、暴力、犯罪者、スラム文化といった朝鮮族のマイナスイメージを拡大するような姿が多く描かれている。[31] このようなメッセージはそれが朝鮮族のための代弁者のものであれ、非難者のものであれ、結果的に彼らが社会・経済・文化的「劣性」的な存在で、それらを「生得的」なものであるかのようにステレオタイプとして描くことになる。所謂「朝鮮族という用語は中国では『清潔で勤勉』というイメージが強いが、韓国では不法行為を起こし、３Ｋ労働に従事する社会底辺に置かれている人々」で、「韓国人に比べて文化的に洗練されてない、汚く教養がない下層民として認識される」[32] というイメージが強い。このようなイメージは「中国朝鮮族」というカテゴリーを作り出す外部的な要因として作用する。2003年の調査時にも、朝鮮族自身からも、また周囲の韓国人からも朝鮮族に対して、韓国人と同一視するような呼称は聞かれずに「朝鮮族」と称されていた事実からも、韓国内において「朝鮮族」というカテゴリーが固定化されつつあることが想定され得る。そして韓国社会のこのような目線の中で朝鮮族は「中国国民」であるというアイデンティティを再確認することになる。

２．内的要因としての文化

韓国人と朝鮮族の違いに関して今まで「文化」や「習慣」の違いがよく強調されてきた。しかし、朝鮮族に「韓国人のどんなところに異質感を感じるのか」と問いかけて見ると、その文化的差異は言葉や習慣など限定された場面にとどまらず、価値観、労働観念、ジェンダーなど生活のさまざまな面に及んでいる。それを示すものとして以下の資料を取り上げることができる。

資料６「建設現場で働いているが、社長はなるべく労働時間を延ばそうとする。韓国人労働者には残業代が払われるが、朝鮮族には払われない。中国ではここまで監視され、休ませず働かせることは考えられない。やっぱり中国のほうがいい。」

資料７「韓国人はいつも中国人は礼儀も教養もないような言い方をする。でも実際韓国に来て見ると中国と変わらない。バスや地下鉄に乗って老人が立っていても、人々を押しのけて自分の子供を座らせる若い女性を見て驚いた。中国人は老人を大事にする習慣がある。席を譲ったりすることは当たり前のことである。」

資料９「延辺なまりの言葉で最初は恥ずかしかったけど、いまは気にしない。少なくとも朝鮮族は中国語を話す。中国にいる子供は漢族学校に通わせるつもりである。韓国語をしゃべるのも大事だけど、中国語のほうが子供の将来にプラスになると思う。」

資料10「娘が韓国人と結婚したが、夫の家族とうまくいかない。姑は目上の人だといって嫁を家政婦みたいな扱いをする。中国では結婚した嫁に対してこんな酷いことありえない。それに夫は暴力を振るう…中国女性で夫に暴力を振るわれて我慢する女性はいない…娘はもう中国に戻って自分の好きな仕事をしたいという。中国では天津で仕事してたから。」

資料11「韓国で最初働いた工場では二ケ月も給料を貰えなかった。韓国人の中には朝鮮族の不法滞在という弱みを利用して詐欺する人も少なくない。韓国という社会はお金がすべてである。韓国人は簡単に信用できない。」

（資料５，６，９，10，11とも全文は後の資料集「文化的ギャップ」の部分を参照.）

歴史的に見れば、中国朝鮮族は北朝鮮出身者が多く、中国という異文化圏で中国文化を吸収しがら朝鮮族独自の文化を築き上げてきた。そして社会主義国家というイデオロ

31　2001年12月「朝鮮日報」には「コリアンドリーム10年」という特集が掲載された。その内容とは「離婚、離農、離婚訴訟絶えず」「教師、公務員、主婦、農民争って韓国行へ」「韓国生活を味わうと中国では生活できない。またソウルへいく」「崩れていく朝鮮族社会」など韓国への移動が朝鮮族社会に与える問題を取り上げているが、そこには朝鮮族の韓国への憧れが大前提になっている。『中央日報』は2002年８月「韓国の中の延辺―ソウル朝鮮族タウン」という特集を掲載した。その内容とは８月14日「乾豆腐にコップ酒を飲む異邦人地帯」「暴行されても申告だけはぜひ…」「３年働いても入国費用稼げず」、８月15日「お金なら…賭博に堕落まで」「中国同胞タウン―犯罪の通路になる憂慮―請負暴力まで登場」「拘束され、追放される時は借金だらけ。奴隷の身の上に」「内国人との葛藤、スラム文化拡大憂慮」「上半期殺人８件…治安の脅威へ」、８月16日「売春報道に離婚訴訟絶えず」などの朝鮮族が韓国社会に与える影響を扱っている。

32　魯：2000：Ｐ．43.

ギーの中で、文化変容だけではなく、価値観、倫理などの面でも大きな変化を遂げたのである。中国は建国後、男女平等、集団主義、平等主義を掲げた。このようなイデオロギー思想の中で生活してきた朝鮮族は、上下関係、男尊女卑思想が根深い韓国社会でさまざまな葛藤に直面する。例えば、朝鮮族は「残業代が払われず、仕事させられること」、「給料未納」などを資本主義国家だからと認識しており、そこから韓国人の人格を評価する傾向がある。特に、男女平等に関しては中国では、女性が差別されたり、社会活動に障害になることが少くない。建国以来、中国で雄化されたと言われる中国女性は男尊女卑思想が強い韓国での適応上文化的葛藤が大きいと言える。[33] それは資料10からも見られるように、家庭内においても同様の傾向がある。そして言語を一つ取り上げて見ても、中国国内では朝鮮語に対して洗練されてないイメージが強く、韓国語イントネーションという「本物」に対する志向が強いが、韓国においては資料9で見られるように、韓国人と同じく韓国語を話しても特別のメリットはなく、むしろ中国語を話せる方が社会上昇に結びつくという意識が強いといえる。つまり、単純な文化的接近という段階というより、文化に対する価値観が問われるのである。

中国において朝鮮族は「清潔、勤勉、教養」と言った文化要因を取り上げ、絶えず肯定的な自民族の自画像を描き、民族的誇りを高めてきた。しかし、韓国社会で朝鮮族のこのような自民族に対するイメージは通用しない。韓国人の前で朝鮮族は中国での「清潔さや教養」といったプラスの自民族イメージで自分たちを区分することができない。したがって朝鮮族のエスニシティの表明において、自らの意志である面では民族のルーツを朝鮮半島に求めながらも、韓国内では伝統的な朝鮮族意識をあえて強調せず、中国的な文化要因（漢族的な文化）をより強く打ち出す傾向が見られる。例えば、中国における男女平等は、建国後中国社会のイデオロギーの一つであるが、朝鮮族はこのような要素を用いて、自分たちと韓国人の差異を強調する。儒教的な内容においても「老人を大事にする中国の伝統」を取り上げ、韓国人と中国人を区分しており、自分たちを中国人側に位置づける。勿論、差別が存在する社会環境のなかで、なるべく「韓国人」に近づくことによって差別から逃れようとする動きもあるが、[34] 現在の朝鮮族と韓国人と共存形態は、朝鮮族が異質的な韓国文化を取り入れ、自らの文化を変えていくことによって可能になっているという単純な図式では決してないことに留意する必要がある。他方、韓国社会の適応においては、韓国社会の価値観、労働観念などに基づいて、中国で形成された自分たちの従来の行動様式のある部分は変えなければならない。

3．漢族との関係

韓国における朝鮮族を取り巻く社会関係は単純な「韓国人対朝鮮族」という二項的な図式ではなく、漢族の出稼ぎ者との関係も重要な要素と言える。現在韓国には漢族出稼ぎ労働者が約5万人滞在している。彼等は生活面において朝鮮族とは深く関っているとは言えないが、同じ中国人としてのアイデンティティの共有という点からも朝鮮族のエスニシティに大きく影響すると考えられる。

まず、韓国人との関係を見ると、「交友関係においても韓国在住外国人労働者のなかで韓国人と一番交流が少ないのが朝鮮族であって、それは彼等がもっとも差別を意識しているからである」との報告があるように、韓国内の朝鮮族は一般的に「韓国人とは仕事以外には殆ど付き合いがない。」ということである。[35] 朝鮮族の韓国人に対する評価も「人格、信用、自分たちを取り巻く体制、資本主義価値観に対しては否定的な側面偏りが見られる」。[36] このような関係性の背景には、雇う側である韓国人と雇われる側である朝鮮族の力関係から起因すると指摘できる。それとは対照的に韓国において漢族とは仕事場だけではなく、教会、朝鮮族タウン、朝鮮族店などで接点が多い。筆者は漢族と朝鮮族の接点が多い教会で漢族との接触を試みた。この教会では外国人労働者が抱えている産災、ビザ問題、賃金滞納、また職、住居などの問題の解決に携わっているが、毎日平均200人の外国人労働者が訪ねており、その殆どが朝鮮族と漢族である。同じ職場の同僚関係であったり、同郷人であったりといった関係で一緒に相談に来るケースも多い。教会では10人の朝鮮族がボランティアで活躍しているが、漢族にとって言葉が通じる朝鮮族が頼りになる存在であることは言うまでもない。調査では韓国在住の朝鮮族は自分たちの親族、知人との関係が密接であり、漢族や韓国人との交流には基本的に熱心ではないことがわかった。しかし、次の資料から見られるように自分達と同じく韓国内で働く

33　韓国滞在の朝鮮族知識人女性の一人は「保守的な女性たち、女性を差別する社会」として韓国社会を批判し、「韓国の女性たちは結婚する前にはあんなに堂々したのに、結婚してしまうと男性の所有物に転落したり、夫のためだけに存在しているかのように見えてしまうのも、理解に苦しむことである」と語る。（仁科：1996：P.56.）

34　魯氏は「韓国で一年以上滞在した朝鮮族は自分の中から朝鮮族の要素を消そうと努力する。そして、もっと積極的に韓国人のように振舞っている。中には偽装住民登録書を持っている人もいる」と朝鮮族の韓国人への接近を強調している（魯：2000：P．51）。

35　薛：1999：P．236．朝鮮族タウン、教会で韓国人との付き合いに関して「韓国人とは合わない。」「会って挨拶するぐらい」「韓国での地域の運動会やイベントにはまったく参加しない」「互いに干渉せず、すごしたほうがいい」との答えが圧倒的に多かった。

36　金：2001：pp．541—543．

漢族について語る朝鮮族の態度には、中国国内の朝鮮族－漢族の関係では強調されることのない、中国人同士としての協力関係という新たな要素を見出すことができる。

資料12「漢族の友人が仕事中事故で左手の指５本が切断された。会社は慰謝料500万ウォン出して、彼をやめさせた。40歳にもなってないのに、障害者になって中国へ帰っても仕事ができない。それなのに500万ウォンは酷い。もし韓国人が仕事中に事故にあったらこれぐらいの慰謝料で済まないだろう。韓国人は中国人を本当に見下す。彼一人では言葉も通じないし、このまま中国へ行かせるのがかわいそうだ。」

資料13「延辺にいる時は漢族の人とは付き合いが殆どなかった。韓国で彼らは言葉が通じないから大変だと思う。彼らが助けを必要とするときは手伝う。同じ中国人だし、同じく苦労をしているから。」

資料15「延辺では漢族と言葉があまり通じなかったし、漢族をちょっと恐れたところもあった。でも韓国に来てみたらやはり中国人はやさしいと思う。中国ではこんな差別を受けたことがない。韓国は同じ民族でもわれわれに何もしてくれないのに、中国政府は少数民族に対する優遇政策もある。」

（資料12、13、14とも全文は後の「漢族との関係」を参照.）

以上の資料からまず、韓国社会で同じ中国人として、朝鮮族も漢族も同じ立場に置かれている状況が強調されていることである。たとえば、資料12の場合、韓国で事故に巻き込まれ障害者になった漢族友人に対する韓国会社側の待遇問題を解決するため活動するが、そこには友人であることだけではなく、いわゆる「中国人だからこんな待遇を受ける」との認識から感情的になる部分が大きい。そして漢族との交流が少ない朝鮮族の場合でも、「手伝えることがあったら手伝う。同じ中国人だし、同じく苦労しているから」と言い、中国人として同じ立場にあることが強調される。資料15は中国への再評価が漢族への評価に繋がることである。韓国での差別経験は「中国では少数民族が優遇される」という中国少数民族政策を再評価することになり、それがさらに中国主体民族である「漢族の包容力」に繋がる。もともと漢族とは親密な関係にあった人の場合も、韓国で朝鮮民族に対する否定的なイメージが強い反発から、漢族に対して肯定的なイメージを強めるのである。

すなわち、韓国における漢族と朝鮮族の関係は、同じ出稼ぎ者として同じ地域に住み、同じ苦難を味わって来たマイノリティとして連帯することで、「韓国人」と対置され、「中国人同士」の共通の利害として収束されていく関係性であって、中国でのマジョリティとマイノリティとの関係とは異なる、新たな形で連携化していくのである。[37] 力関係も「雇う側」の韓国人、「雇われる側」の朝鮮族、漢族という、韓国人対朝鮮族・漢族という構図になっている。したがって朝鮮族の自己再認識において、中国では普段の生活で漢族と朝鮮族が対立することもあり、意識面では自らのエスニシティを朝鮮民族として朝鮮半島に求める図式から、一転、韓国人対中国人・朝鮮族となり、国籍が中国である、という図式に反転する。韓国内の朝鮮族はこのように中国国内とは反転した立場に立たされることによってエスニシティの再構築が生じることになったと言える。

以上の三点から、韓国における朝鮮族は韓国社会から朝鮮族とカテゴリーされ、周縁的存在として認識されつつあること、朝鮮族自身も中国文化を持ちいれ韓国人と自分たちの境界線を強調し、漢族と新たな関係を結びながら中国人として韓国社会に対置していく立場を選択していることがわかる。

Ⅴ　韓国への定住意識

韓国での出稼ぎという個人的選択に基づいて、韓国社会への適応の過程において自らの意志で中国文化要素を深めながら朝鮮族というアイデンティティを獲得していく朝鮮族の行動様式は、ある意味で韓国における朝鮮族として韓国社会と距離を置き、中国での生活とも微妙に異なる生き方をするものとして、韓国における朝鮮族のエスニシティの差異化を示すものである。このような朝鮮族は「新朝鮮族」とも表現される。[38] 中国、韓国双方を越えて彼ら自身の生活に立脚した新しいエスニシティを持つ「新朝鮮族」にとって、韓国に対する定着意識、韓国社会への距離の取り方とはどんなものであろうか。表５は韓国国家人権委員会が1,400人外国人労働者（中で朝鮮族は942人）を対象として行った国籍取得と国際結婚に関する調査結果で、定住意識の一つの側面を表すものと思われる。

まず定住意識に関して表５から見てゆくと、国籍取得に

37　朝鮮族に対する漢族の認識に関して、教会で漢族出稼ぎ者に「朝鮮族を中国人と見ますか、それとも韓国人と見ますか」と問いかけると、彼等は何の躊躇もなく「もちろん中国人です」と返答する。中には朝鮮族が韓国人と言葉が通じることから朝鮮族との距離感を感じる人も少なくないと考えられるが、中国は56民族が共存する多民族国家で、互いに同じ中国人ということには何の違和感を持たない。ただし、同じ漢民族といっても国内で朝鮮族との接触が少ない南出身の人と、朝鮮族との交流がある東北地域の漢民族の間には多少の違いがあるが、調査で福建省、上海などから来た漢族で、朝鮮族友人がいると答えた人が一人もいなかった。彼らは韓国語もかなり流暢で、同じ出身地の人との関係性が密接である。それと対照的に東北地域の漢族は殆どが朝鮮族友人をもっている反面、韓国友人もなく、韓国語を喋れない人が多かった。

38　金栄基、1994：『朝鮮人　韓国人　新朝鮮族：韓国を知らない韓国人のため』、創志社.

表5　韓国における朝鮮族の定住意識（%）

	産業研修生		未登録労働者	
	韓国系	非韓国系	韓国系	非韓国系
韓国国籍を取得したいですか	(28名)	(248名)	(248名)	(1,139名)
は　い	42.7	39.8	64.4	45.0
いいえ	57.3	60.2	35.6	55.0
韓国人と結婚したいですか	(22名)	(244名)	(195名)	(1,048名)
は　い	26.8	28.7	22.6	25.2
いいえ	73.2	71.3	77.4	74.8

出所：国家人権委員会：2002：P．202より作成．
※「未登録労働者」とは本稿でいう「不法滞在者」を指す。

関しては、韓国系未登録労働者の内64.4%が韓国国籍を取得したいと答え、一般外国未登録労働者の45%を上回る結果になっているが、韓国人と結婚したいですかという質問には、いいえと答えた朝鮮族が77.4%を占め、一般外国労働者未登録者の74.8%を越える結果となっている。そして、合法身分である産業研修生の韓国国籍を取得したくないという答えのほうが取得したいという答えを上回る点から、朝鮮族にとって国籍が法的に認められたいという動機が窺える。これは韓国国籍獲得と韓国定住意識にズレがあることを示す。現時点での朝鮮族の韓国国籍獲得は韓国人男性と結婚した女性、有功者（独立運動家）子女、1948年大韓民国政府成立以前の韓国国籍所有者およびその子女と限られているが、以下の資料からは朝鮮族の定住に関する意識はさまざまであることが窺える。

資料17「韓国国籍を取ると中国と韓国を自由に行き来できるからいいかも知れないけど、将来中国で事業をやりたいからそのときは中国国籍がないと何の保証もなくなるから悩んでいる。韓国ではこれ以上の仕事ができないし、親族もいないので、国籍を取ってもなんの意味がない。」

資料18「韓国国籍があるから、観光ビザで日本に行こうと思ったことがある…長期滞在できるチャンスがあったら、日本で稼ぎたい。」

資料19「中国にはすぐにでも帰りたいが、息子ふたりは大学生でお金がかかる。韓国に来るとき中国での職場もやめたので、ここで働いて仕送りするしかない…息子たちにはできれば日本かアメリカに行かせて勉強させたい。」

資料20「中国には主人がいる。韓国では一人働いても生活できるので、主人を韓国に呼びたい。中国では仕事がないし、生活になんの保障もないから不安である。」

資料21「中国にはすぐ帰るつもりだったけど、中国に帰っても仕事がないし、また7年も韓国で生活してきたわけで、中国での生活に慣れるかの心配もある。日本にいけるなら行きたい。日本のほうが稼ぎがいいだろう。」

資料23「韓国にいる親族とはまったく連絡とっていない。親族といっても顔も知らない。祖先の墓地もわからない。特別に行ってみたいと思わない…中国で生まれ育ったし、今に至るまで親族全員が中国にいるから、韓国に住みたいとはまったく考えない。」
（資料17、18、19、20、21、23とも全文は後の資料「韓国定住に関して」の部分を参照）

これらの資料から朝鮮族の韓国国籍獲得、韓国社会への定住に関する意識を大まかに次の三つのタイプに分けることができる。

1．韓国国籍を取って、中国と韓国を行き来ながら経済活動を行う者．
2．中国では仕事がないからできるだけ韓国で仕事を続けたい者．
3．経済的にもっと発展した日本、アメリカに行きたい者．

まずは第一タイプである。前に紹介した韓国国籍獲得者である資料2の男性は中国でも「ビデオ」店を現地の友人と共同経営しており、将来は中国での経営に力を入れようとしている。国際結婚者である資料3の女性も子供を中国に預けて、将来中国の都市部で何かやりたいと中国とも密接なつながりを持つことを望んでいることが明らかである。そして資料17からは「韓国国籍を取ると中国と韓国を自由に行き来できるが」「将来中国で事業をやりたいときには中国国籍がないと何の保証もなくなるから悩んでいる」と、国籍獲得には葛藤を感じているものもいる。つまり韓国では飲食業経営以外にほかの可能性が少なく、自分の成功が見えない状況で、将来的には中国で事業をやりたいという傾向が強いことが窺える。特に、一時的な出稼ぎから将来ビジネスに携わろうとする朝鮮族の中には、大国である中国こそビジネスチャンスが多いことから、中国と韓国両方を自由に往復できることを望んでいる。そこで中国と韓国を自由に行き来できる韓国国籍の取得が彼らの経済活動に有効な条件となる。

次は、韓国での長期滞在を望むタイプである。韓国への出稼ぎ者は低学歴者が多く、若年層は上昇志向が強い反面、中国国内では社会的上昇を果たす道が制限されている。彼らにとって韓国での出稼ぎが自分たちの経済力を高める道になる。[39] 年輩の人の中にも韓国では言葉が通じるなど中国より便利という理由、稼ぎがいいという理由から帰国より家族を韓国に呼ぶことを望んでいるが、中国と韓国の経済的格差が存在し、中国の福祉制度が改善されないかぎり、

しばらくは朝鮮族の韓国への移動と就労期間の長期化は持続すると思われる。資料20の女性のような家族結合派は、三つのタイプの中で最っとも定住への指向性をもつと言えるが、しかしそれは韓国ドリームに自分たちの家族の生活を合わせようとした結果で、必ずしも韓国を永住の場所と選んだというものとは言えない。[40]

第三は、第三国を志向するタイプである。韓国への出稼ぎが朝鮮族の国際感覚を高めたことは言うまでもない。韓国での生活を通して海外移動に対する不安も少なく、資料18、21に見られるように若い人の中には経済的にもっと豊かな日本、アメリカを志向する人が多い。年配の人の中には自分たちは韓国での生活を続けながらも、彼らにとって最も重要な関心事は子女の社会的上昇であって、資料19の人のように子供を経済的にもっと豊かな日本、アメリカに向かわせたがる傾向が強いが、調査時実際韓国で稼いだお金で子供を日本に留学させている人も二人いた。

朝鮮族の韓国への定着意識の低さは、まずは韓国社会が朝鮮族を正式なメンバーとして受け入れない現状が大きな壁となっている。そして、もう一つの理由としては韓国社会との親族的つながりが薄く、情緒的に韓国への帰属意識が希薄であることである。資料23で、親族と祖先に対して「親族といっても顔も知らない、祖先の墓地もわからない。特別に行ってみたいと思わない。遠い昔の話である」と語るように、4世が中心になっている朝鮮族にとって、親族と言っても顔も知らなければ、祖先の故地の名前やその場所さえ知らない人が多い。このような状況は韓国親族とのあり方、共通の祖先に対する意識を希薄化し、自分たちを中国に定位する理由でもある。しかし、朝鮮族がこのように自分たちを中国に帰属させるのは中国に対する政治的忠誠心や中国国民として国家に対する忠誠心からというより、自分が生まれた地域、親族に対する帰属意識であり、何よりビジネスチャンスといった経済的理由によるものである。

すなわち、国家への帰属意識という側面から見た場合、朝鮮族の存在を一律に「中国への祖国意識を高めた」、あるいは韓国での生活が長いということから「中国へ戻りたくない」という二者択一の選択肢から論ずることはできない。韓国においても、中国においても朝鮮族が周縁的存在である立場には変わりがない。彼らは必ずしも韓国、中国どちらかに帰属したがっているとはいいにくく、中国の将来性に注目していながらも、経済的利益を求めて日本、アメリカなどさまざまな国へ自由に行き来しながら仕事しようとする意欲が強く見られる。実際、韓国から帰国した人の中には、出稼ぎで稼いだお金を資本にして、再び日本、アメリカへ行く人も少なくない。そして、韓国で国籍を獲得後、短期ビザで日本に入国し、不法滞在をしている人も存在する。つまり、朝鮮族の韓国に対する定住意識に共通するものとは、民族を云々する前に個人としての経済的要因が強調されることである。このような点から朝鮮族にとって韓国という存在は母国というより、ひろい世界へ進出する際の一つの通過点、そして、中国と韓国を自由に行き来でき、第三国への入国が便利な韓国国籍が結果的に一つの個人的成功を導く条件として利用されているともいえる。つまり、将来がより広く選択できる韓国での出稼ぎを選んで生活するのであって、韓国を最終的な定住の場所と考える者は少ないことが明らかである。[41]

Ⅵ　おわりに

以上、韓国における朝鮮族のエスニシティの差異化を朝鮮族タウンの展開を中心に見てきたが、そこから二つの基本的な傾向を見て取ることができる。第一に、韓国へ出稼ぎに来た朝鮮族は、韓国社会の中で、朝鮮族間の凝集力を高めたということである。こうした韓国での適応過程で見られる朝鮮族の集団化は不法滞在という逆境に対処するため、韓国社会に対置し朝鮮族同士の社会関係を再編しながら中国人としての凝集力を高めたもので、中国内での朝鮮族の集団化とは異なる様相を持つ。第二に、韓国内の朝鮮族はエスニシティ差異化過程の中で、自分たちの民族的な独自性の主張、自己認識においては、中国での伝統的な朝鮮族意識を保ちつつ、中国的文化要因を前面に出した朝鮮族文化の演出によって、韓国文化との差異を強調しながら中国朝鮮族としてのエスニック・アイディンティティを強めていく傾向が見られる。つまり、韓国における朝鮮族の

39　調査で多くの人は目的が達成できたら中国への帰国を望みながらも実際には長期滞在になるが、その大きな理由として、彼らが家族から大きな経済的期待を背負っていることと、韓国への入国が難しいこと、中国では仕事がないなどの要因がある。そして韓国での生活が長くなるにつれ、韓国的生活様式や考え方は中国に戻った場合適応しにくくなるとの要因に不安を感じる人も多く、不法滞在で強制送還されない限り、韓国で生活を続ける人が多い。

40　中国は1990年代から教育費の上昇率が高く、一般人の収入では子供を大学までいかせるのが難しい。そして中国には社会福祉制度がまだ完備されていないため、老後生活の保障も不十分である。このような要因は壮年層の出国の大きな理由となる。

41　2003年11月13日、朝鮮族の国籍回復運動を展開している「ソウル朝鮮族教会」の主催でソウル汝矣島で朝鮮族5,000余名が参加した集会があった。参加者たちは果川法務部庁舎に移動して国籍申請書5,525件を提出したが、法務省は朝鮮族申請者の殆どが強制追放対象の4年以上の滞在者であるとの理由で却下した。韓国国籍獲得運動背景には韓国国籍を獲得すると中国と韓国へ自由に行き来できる現状があり、しかも韓国で不法滞在という不利な立場の脱却、就労機会の拡大という経済的な要因が大きいと言えよう。

エスニシティ差異化現象とは単なる自己の再確認ではなく、韓国という社会文脈との相互作用によって、社会的にも、文化的にも中国での朝鮮族エスニシティとは異った、新しいエスニシティを構築する動きと言える。

中国では1949年建国と共に国民創出政策がとられた。朝鮮族も1952年正式に「朝鮮族」と命名され、中国少数民族として中国国民に組み込まれた。朝鮮族は新たに創出されたカテゴリーを抵抗なく受け入れると同時に朝鮮半島へのルーツ、伝統的に共有している言語、慣習、そして自らの意識などによって「中国朝鮮族」と言う自画像を描き出し、民族的統合を保持してきた。そして、中国の改革開放に伴って韓国へ移動した朝鮮族は新たな形で自分たちのエスニシティを強調しながら、自分たちの世界を作り上げていくのである。従来中国から韓国への朝鮮族の移動に関して、韓国側の研究者も中国側の研究者も朝鮮族が同じ民族として文化的葛藤を持ちながらも、韓国社会に溶け込み、結果的には中国朝鮮族社会の解体を招くと想定してきた。しかし、韓国における朝鮮族のエスニシティ差異化の例から見ても、民族的要因が必ずしも民族融合や民族同化をもたらすとはいえないことは明らかである。しかもすでに述べたように、国内・国外へ移動する朝鮮族は必ずしも韓国社会を最終的定住地とするわけではなく、韓国－中国間で還流的生き方を望む者、韓国への移動を日本やアメリカ等の地への移動する以前の初期の通過点とみなす者も多い。このような現象から韓国における朝鮮族のエスニシティ差異化の一環としての「朝鮮族タウン」が持つ意味を国内移動・国際移動を含めた朝鮮族全体の移動から見た場合、韓国内朝鮮族タウンは朝鮮族ネットワーク形成における一つの通過点という機能を持っているといえよう。その意味で、本稿はグローバル化の時代、国境を越えて拡大してゆく中国朝鮮族ネットワーク形成の一段階を解明する一つの試みである。[42]

【参考文献】

秋元律郎，2002：『現代都市とエスニシティ―シカゴ社会学を巡って』，早稲田大学出版会.

青柳まちこ（編），1996：『「エスニック」とは何か』，新泉社.

駒井　洋（編），1995：『定住化する外国人』，明石書店.

仁科健一（編），1996：『新韓国読本５　異邦の韓国人・韓国の異邦人』，社会評論社.

桑原靖夫，1996：『国境を越える労働者』，岩波新書.

奥田道大(編)，1996：『コミュニティとエスニシティ』，勁草書店.

小倉充夫（編），1997：『国際移動論』，三嶺書房.

梶田孝道（編），2001：『国際化とアイデンティティ』，ミネヴァ書房.

韓　景旭，2001：『韓国・朝鮮系中国人＝朝鮮族』，中国書店.

加納弘博（編），2002：『国際社会7　変貌する「第三世界」と国際社会』，東京大学出版会.

梶田孝道（編），2002：『国際社会４　マイノリティと社会構造』，東京大学出版会.

原尻英樹，2000：『コリアンタウンの民族誌―ハワイ・LA・生野』，ちくま新書.

広田康生，1997：『エスニシティと都市』，有信堂高文社.

町村敬志，1999：『越境者たちのロサンゼルス』，平凡社.

薛　東勲，1999：『外国人労働者と韓国社会』（韓国語），ソウル大学.

金　慶一(編)，1994：『中国朝鮮族文化論』（韓国語），遼寧民族出版社.

黄　勝延，1996：『中国同胞の韓国社会適応実態』（韓国語），韓国民族文化研究所.

李　順玉，1997：『中国朝鮮族から見る韓国人、韓国人から見る中国朝鮮族』（韓国語），延辺大学出版社.

蔡　尚植(編)，1997：『韓国民族文化』（韓国語），釜山大学校韓国民族文化研究所.

石　賢浩（編），1998：『外国人労働者の労使関係と社会適応』（韓国語），集文堂.

李　光奎，2002：『激動期の中国朝鮮族』（韓国語），白山書堂.

金　強一(編)，2001：『中国朝鮮族社会的文化優勢与発展戦略』（韓国語），延辺人民出版社.

金　永範（編），2002：『経済生活』１－3号（韓国語），北京民族出版社.

国家人権委員会(編)，2002：『国内居住外国人労働者人権実態調査』（韓国語），内部資料.

朴光星，2002：「韓国における朝鮮族労働者の流入と定着、適応に関する研究」（韓国語），ソウル大学修士論文.

魯高雲，2001：「期待と現実の狭間で：韓国内朝鮮族労働者の生活と適応戦略」（韓国語），ソウル大学修士論文.

李スゥヒョン，1999：「中国朝鮮族に対する韓中両国の認識と政策に関する研究」（韓国語），ソウル大学修士論文.

黄スンヨン，1998：「中国同胞の韓国適応実態」（韓国語），ソウル大学修士論文.

南川文里，2000：「エスニック・ニッチの確立と移民のエスニック化－ロサンゼルス日系移民都市商業の歴史的展開を通して」『日本都市社会学会年報』18，pp. 83～99.

長坂　格，1995：「『国際労働移動の人類学』試論」，『社会学雑誌』⑫，神戸大学社会学研究会，pp.115～138.

【資　　料】

（2004年８月，ガリボン地区中国朝鮮族とのインタビューに基いて作成。）

【経済活動】

資料１「1998年に先に韓国に来ている叔母の紹介で韓国人男性と結婚をして入国しました。韓国での生活が落ち着くと2000年４月に店を出しました。朝鮮族が多く、交通が便利で部屋代、保証金などが安かったため、朝鮮族町に並ぶこの場所を選びました。店は餃子など中華料理を中心に朝鮮族料理や韓国式の漬物とか加えてます。韓国料理は単調で朝鮮族にあまり好まれません。お客は主に朝鮮族と漢族のため、店の看板も『小吃部』と中国式にしました。看板を見て初めての人でも気軽く入れるでしょう。店は小さいですけど、不法滞在の朝鮮族が全部強制帰国されるかも知れないので店を大きくするつもりはありません。中国では飲食業に

42　出稼ぎ者の多様な「適応」の仕方や受け入れ社会との関わり方には、個人差が大きいし、さらに韓国滞在の年数によって意識にはかなりの差異が見られると思う。本稿では明らかにできなかったが、韓国側の「装置」問題を含めてこうしたさまざまな要因との関わりについては今後の課題としたい。

従事した経験がないため、料理の担当は同じ出身地から来た経験者に任せています。ほかに親戚が二人働いています。韓国人客は期待しません。食文化が違うこともありますが、なにより韓国人客と朝鮮族とのトラブルを避けたいからです。お店にくる朝鮮族労働者たちはよく仕事での不満を言いますが、お客に韓国人がいた場合、お酒の勢いで喧嘩になるケースもしばしばあります。それに不法滞在者が多いので、やっぱり中国人だけのほうが安心できます。メニューも中国語でしか書いていません。ここで店を開いても近所の韓国人とは付き合いはありません。夫の親戚との付き合いもほとんどないです。」(女、30代、黒龍江省出身、滞在歴6年)

資料2「お父さん(1942年、二歳の時に中国に渡った)の戸籍が偶然にも韓国に残っていたため、1999年に一家4人(両親と弟)が韓国国籍を獲得し、韓国で生活することになりました。中国では貿易会社に勤めて、肉体労働をした経験もなかったし、体力的にも精神的にも苦痛でした。長期的な生活を考えて家族で朝鮮族が多いガリボンに店を出すことにしました。最初は資金が少なかったため、小規模の「羊肉串」(元々は朝鮮族料理ではなく、ウイグル族によって伝わった料理だが、延辺などでは朝鮮族経営者も多く、朝鮮族料理として定着しつつある。)店を出しました。お店の景気がよく、ある程度の資金力がつくと、カラオケ店も出しました。朝鮮族はカラオケが好きですけど、韓国のカラオケには入りにくいこともあります。店を出すには8,000万ウォンが必要でした。大金だったので韓国にいる友人、親族などからも借金しました。中国では朝鮮族に韓国歌が絶対的に人気あることもあって、最初は韓国歌をメインにして中国の歌を少し入れました。でも、故郷を思う郷愁のためか中国語の歌や延辺の歌が人気あって、いまはお客のリクエストに答えて4,000曲まで増やしています。看板も中国歌謡、延辺歌謡と漢語で書くようにしました。お店には漢族の常連客もいますが、漢族だけで来ることは少なく、朝鮮族友人と来るケースが多いです。韓国で言葉が通じないことから、やはり朝鮮族に親しみを感じるからでしょう。いまは何とか運営できるけど、韓国ではこれ以上の仕事ができないでしょう。それで、中国現地の友人と中国でビデオ店を共同経営しています。やはり中国に行くと落ち着きますね。将来は中国での経営に力を入れるつもりです。」(男、30代、吉林出身、滞在歴5年)

資料3「朝鮮族料理とは韓国料理でも、中華料理でもないでしょう。韓国料理に比べて中華料理のほうがはるかに豊富です。韓国ではやっぱり中華料理のほうが特徴も新鮮味もあって、将来性があると思います。」(男、40代、延辺出身、滞在歴4年)

資料4「韓国式にしようとしても、自分たちにはよくできないし…中国料理は中国人を雇ってできるのでやりやすいです。それに実際韓国料理は朝鮮族にあまり合わないです。」(女、30代、吉林出身、滞在歴5年)

【国際結婚】

資料5「1997年ブローカーを通じて韓国人男性と結婚して韓国に来ました。中国では工場が倒産し、夫婦2人とも無職になったので韓国への出稼ぎを決意しましたが、年齢制限などで入国が不可能でした。それで結婚という手段で韓国に入国しました。入国する前にすでに偽装結婚として韓国人夫にはお金を払いましたのでトラブルはありませんでした。韓国では先に来ているいとこの所に身を寄せ、料理屋やホテルで毎日12時間以上働きました。3年前に永住権も獲得し、多少資金も集めたのでガリボンに小さな店を出しました。中国には姉と弟二人いましたが、出国費用の一部を出して二人も韓国に呼び寄せました。二人とも中国で結婚していますが、無職で生活が大変だったからね。子供1人は中国にいる親の所に預けて、定期的に送金しています。子供は韓国に呼ぶつもりはありません。自分が忙しいので子供の世話もよくできないし、それに学校でいじめに会うか心配です。国際結婚者のなかには韓国で子供の教育で悩む人が少なくありません。中国でいい教育を受けさせ、いい大学に行かせたいですね。いまはここで一生懸命稼いで、将来子供がいる都市に行ってお店を開くことが夢です…店の従業員3人は同じ延辺の人ですので、特に孤独感はありません。それに店のお客も殆どが朝鮮族だし。ただ店の客の殆どが不法滞在者であるため、自分の名義で彼等に携帯電話を登録してあげたたり、仕送りなどもしてあげました、一時は自分名義の電話が5個もありました。私は朝鮮族を助け合うことに別に積極的に関わりたかったわけではありません。ただ最初は同じ延辺の人が来ると同情して部屋の世話をしたり、知人に頼んで仕事を紹介したりするうちに、その人たちが又知人を紹介することになっていつのまにか世話役の中心になりました。実際、ここ数年少なくとも数十の部屋も探してくれました。二年前ぐらいからガリボンにも電話や仕送りを扱うところや不動産などができて大変便利になりました。」(女、40代、延辺出身、滞在歴7年)

【文化的ギャップ】

資料6「建設現場で働いて、肉体的にきついこともあるけど、韓国人の言葉や態度には耐えられませんね。社長はなるべく労働時間を延ばそうとします。韓国人労働者には残業代が払われますが、朝鮮族には払われません。それにいつも命令語であれこれしなさいと催促します。現場には韓国人もいますが、私より年下なのに同じ韓国人には敬語を使ってもわれわれ朝鮮族には敬語を使いません。中国ではここまで監視され、休ませずに働かせることは考えられません。借金してきたからしかたなく我慢しますけど、やっぱり中国のほうがいいです。中国もはやく豊かになってほしいですね。」(男性、50代、延辺出身、滞在歴2年)

資料7「中国に来ている韓国人はいつも韓国は『礼儀の国』であるといいながら中国人は礼儀も教養もないような言い方をします。でも実際韓国に来て見ると中国と変わらないです。バスや地下鉄に乗ってみても車内で大きな声で話すし、年寄が立っていても、人々を押しのけて自分の子供を座らせる若い女性はいくらでもいます。見て驚きました。中国人はね、老人を大事にする習慣があります。席を譲ったりすることは当たり前のことです…食文化も中国や日本に比べたら、多様さも丁寧さもないものですね。」(男、30代、吉林出身者、滞在歴2年、日本に3年滞在歴あり)

資料8「韓国人は何をやってもせっかちで、結論だすのも早く、慎重さがないです。彼らはいつも中国人を『まんまんでぃ』(のんびり屋という意味)とあざ笑うけど、韓国も経済的に発展したのは最近のことでしょう。彼らは本当の中国人の慎重さや深みを知らないから中国人を見下すけど、いずれ中国人に負けますよ。経済的な面を見ても将来的に中国のほうがずっといいと思いますよ。」(男、50代、延辺出身、滞在歴7年)

資料9「工場の食堂で働きますが、延辺なまりの言葉でみんなによく笑われました。韓国では延辺なまりだと見下されます。最初は恥ずかしかったけど、いまは気にしません。韓国にもいろんな方言があるでしょう？それに少なくとも朝鮮族は中国語が話せます。いま子供は親のところへ預けて来ましたが、漢族の学校に通わせるつもりです。民族語だから韓国語もしゃべるのも大事だけど、やっぱり中国語のほうが子供の将来にもプラスになると思いますよ。」(女、30代、延辺出身、滞在歴3年)

資料10「娘が韓国人と結婚しましたが、夫の家族とうまくいかないのです。中国から来て知らないことも多くいろいろ言われることは覚悟しましたが、姑は嫁の関係はあまりにも中国とは違います。目上の人だといって嫁を家政婦みたいな扱いをします。中国では結婚した嫁に対してこんな酷いことを言う姑はいません。中国では女性が大事にされるからね。それに夫は暴力を振るうし…中国女性で夫に暴力を振るわれて我慢する女性がいますか。最初は我慢しなさいと説得したけど、いまはなにも言えません。離婚のことで今日教会に相談に来ましたけど、ここでも韓国国籍を取ったから離婚するのって、それに女だから我慢するような言い方をされました…娘はもう中国に戻って自分の好きな仕事をしたいといいます。中国では天津で仕事してましたからね。」(女、60代、遼寧出身、滞在歴2年)

資料11「韓国で最初働いた工場では二ケ月も給料を貰えませんでした。私が不法滞在ということを知ってたので、給料の話をすると警察に通報すると脅かされました。来るとき借金いっぱい作ってきたので強制送還されるのが怖くて、結局は給料も貰えず友人の紹介でいまの職場に来ました。韓国にはいい人も多いけど、朝鮮族の不法滞在という弱みを利用して詐欺する人も少なくないです。韓国はお金がすべてです。韓国人は簡単に信用できません」（男、40代、延辺出身、滞在歴3年）

【漢族との関係】

資料12「漢族の友人と一緒に来ました。中国からの友人です。彼は研修生で韓国に来ましたが、給料が低かったので、友人が働く精密機械工場に紹介して働かせました。いまは不法滞在です。ところが仕事中事故で左手の指5本が切断されました。会社は慰謝料500万ウォン出して、彼をやめさせました。40歳にもなってないのに、障害者になって中国へ帰っても仕事ができないでしょう。それなのに500万ウォンって酷くないですか？それで会社側と交渉してみましたが、相手にもされなかったです。不法滞在者だからどうしょうもないでしょう。向こうも不法滞在という弱みを知っているから譲らないのです。それで何とかならないかと思ってここ教会に来ました。でもここでも『それぐらいでいいんじゃない』と言われました。もし韓国人が仕事中に事故にあったらこれぐらいの慰謝料で済まないでしょう？韓国人は中国人を本当に見下します。彼一人では言葉も通じないし、このまま中国へ行かせるのがかわいそうで、一緒に走り回りましたけど、何の解決にもならないですね。」（男、30代、黒龍江省出身、滞在歴3年）

資料13「延辺にいるときは漢族の人とは付き合いがほとんどなかったです。職場では民族対立みたいなものも多かったです。いまでも彼らと付き合いはないけど、嫌いとは思いません。韓国で彼らは言葉が通じないから大変だと思います。もし私たちの助けが必要な時は手伝いますよ。同じ中国人だし、同じく苦労をしているから」（女、40代、延辺出身、滞在歴5年）

資料14「中国にいる時は友たちの殆どが漢族で朝鮮族とはあまり付き合いはなかったです。韓国に来てから朝鮮族とも韓国人とも付き合うことになりましたが、どちらとも親しくなれません。漢族友達は義理人情に固いです。その面では朝鮮民族は比べにならないです。韓国でも漢族友人はいます。最初働いた工場にも漢族の人が一人いましたけど、言葉が通じなかったので心細かったでしょう。休憩時間には必ず私のところに来ましたね。」（女、30代、吉林出身、滞在歴6年）

資料15「延辺では私ぐらいの年齢の人は漢族を嫌っている人も少ないと思います。言葉があまり通じなかったし、それに漢族というとちょっと恐れたところもありましたね。でも韓国に来てみたらやはり中国人はやさしいとつくづく思います。中国ではこんな差別を受けたことがなかったし…韓国にいる朝鮮族のなかにも韓国人に利用され、「法輪功」などの問題を取り上げ、中国政府を反対する運動に参加する人もいます。私はそんな人が嫌いですね。韓国は同じ民族でもわれわれに何もしてくれないのに、中国政府は少数民族に対しても優遇政策もありますからね。今まで中国でいろいろお世話になったのに、中国政府を非難するなんて、出稼ぎに来たなら静かに金さえ稼げばいいのに」（男、60代、延辺出身、滞在歴7年）

資料16「同じ工事現場にも漢族の人が何人かいます。彼らはもともと韓国人に近づこうともしないし、韓国語を習おうともしません。仕事で何があったら朝鮮族が通訳の役割ですね。休憩時間にも朝鮮族と韓国人は別々に集まって休みを取ります。韓国人は一人になった場合でも朝鮮族のところに来ません。漢族の人たちも基本的に自分たちで集まりますが、一人のときはどうせ朝鮮族のところにきますよ。」（男、40代、黒龍江省出身、滞在歴3年）

【韓国国籍取得、定住】

資料17「韓国国籍を取ると中国と韓国を自由に行き来できるからいいかも知れないけど、将来中国で事業をやりたいからそのときは中国国籍がないと何の保証もなくなるから悩んでいます。韓国ではこれ以上の仕事ができないし、親族もいないので、国籍を取ってもなんの意味がないです。」（女、30代、吉林出身、滞在歴3年）

資料18「韓国国籍があるから、観光ビザで日本に行こうかなと思ったことがあります。でも日本には知人もいないし、それに不法滞在になるのもいやだったので諦めましたけど…もし長期滞在できるチャンスがあったら、日本で稼ぎたいですね」（女、40代、遼寧出身、滞在歴6年）

資料19「中国には奥さんと息子二人います。中国にはすぐにでも帰りたいですが、息子ふたりは大学生でお金がかかります。韓国に来るため中国での職場もやめたので、ここで働いて仕送りするしかないです…息子たちにはこんな苦労させたくありません。中国でいい仕事に就くか、できれば日本かアメリカに行かせて勉強させたいですね。」（男、50代、遼寧出身、滞在歴3年）

資料20「私はいま息子も来ていて一緒に生活しています。中国には主人がいます。主人は病弱で仕事ができません。ここではわたし一人働いても生活できますので、主人はここに呼びたいですね。中国では仕事がないし、生活になんの保障もないから不安です。」（女、50代、延辺出身、滞在歴2年）

資料21「本当は日本へ行きたがったけど、手数料が高く、それに言葉が通じないという不安もあったので、結局は韓国を選びました。韓国で知り合った朝鮮族女性と3年前から同棲しています。中国にはすぐ帰るつもりだったけど、中国に帰っても仕事がないし、また7年も韓国で生活してきたわけで、中国での生活に慣れるかの心配もありますね。いまでも日本にいけるなら行きたいです。日本のほうが稼ぎがいいでしょう。」（男、30代、延辺出身、滞在歴7年）

資料22「私は教会でボランティア活動をしています。ここには80歳になるおばあさんが韓国国籍の復帰のため一年近く教会で生活しています。お婆さんは有功者子女ですが、韓国側は書類が不十分だという理由で受理しません。お婆さんは出稼ぎ目的もありません。有功者の一人娘としてお父さんのルーツを求めて韓国まで来たのに、こんな待遇を受けています。ほかの人も同じです。韓国は自分たちの母国なのに自由に入国する権利さえないです。中国を離れたくて韓国国籍を求めているのではありません。ただ、自分たちにあるべき権利を主張したいです。」（女40代、吉林出身、滞在歴4年）

資料23「お父さんのいとこがいますが連絡とっていません。来るときもブローカーに頼って着ました。親族といっても顔も知らないし、向こうも面倒なことに関わりたくはないでしょう。お爺さんが韓国スウォン出身だと話しを聞いただけ、祖先の墓地もわかりません。別に行ってみたいと思いません。遠い昔の話です。私にとって祖国は中国です。中国で生まれ育ったし、親族全員が中国にいますし、韓国に住みたいとまったく考えていません。」（男、40代、延辺出身、滞在歴3年）